

2016年12月期第1四半期 決算説明資料

株式会社RS Technologies
東証マザーズ：3445

1

13. May. 2016



注意事項

- 当該資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営を取りまく様々な環境の変化により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報の中には「見通し情報」が含まれております。これらの情報は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実際には異なる結果となる不確実性を含んでおります。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。
- 資料中で「生産能力」についての記載は、全て当社グループの“300mm再生ウェーハ”の能力を指しております。

2

13. May. 2016



目次

2016年12月期第1四半期決算情報 P. 4- 6

中・長期的な経営方針 P. 7-13

2016年12月期第1四半期 決算情報

2016年12月期第1四半期決算情報 ☆ サマリー ☆

第1四半期はおおむね事業計画の進捗通り業績は推移しており、
売上高・営業利益は順調に推移。経常利益は急激な円高の影響を受ける。
純利益は台湾の遅れのため損失を計上。（年間計画は据え置きとする。）

単位：百万円

	2016年12月期 第1四半期	2015年12月期 第1四半期	前期比	2016年12月期 第2四半期 事業計画 (2016年1~6月)	進捗率
売上高	1,713	1,209	141.7%	3,196	53.6%
営業利益	150	307	48.9%	454	33.0%
営業利益率	8.8%	25.4%	▲16.6pt	14.2%	-
経常利益	25	275	9.0%	414	9.4%
経常利益率	1.5%	22.8%	▲21.3pt	13.0%	-
当期(四半期) 純利益	▲37	110	-	217	-

2016年12月期第1四半期決算情報 ☆ 会社別 ☆

■ 台湾子会社(台湾)において、前期に引き続き人件費・減価償却費等の固定費を吸収できず損失を計上。

■ RS Tec(日本)では、顧客からの旺盛な需要に答え、好調を維持。台湾子会社の損失をカバー。

単位：百万円

	RS Tec (日本)	台湾子会社 (台湾)	連結消去	連結合計
売上高	1,677	72	▲36	1,713
営業利益	328	▲166	▲12	150
営業利益率	19.6%	-%		8.8%
経常利益	263	▲210	▲28	25
経常利益率	15.7%	-%		1.5%
当期(四半期) 純利益	199	▲210	▲28	▲37

中・長期的な経営方針

中・長期的な経営方針

①台湾子会社新設・三本木工場増設による生産力拡大

②再生市場での当社のシェア拡大

③伸長する需要の取込み

④潜在的な再生市場の開拓

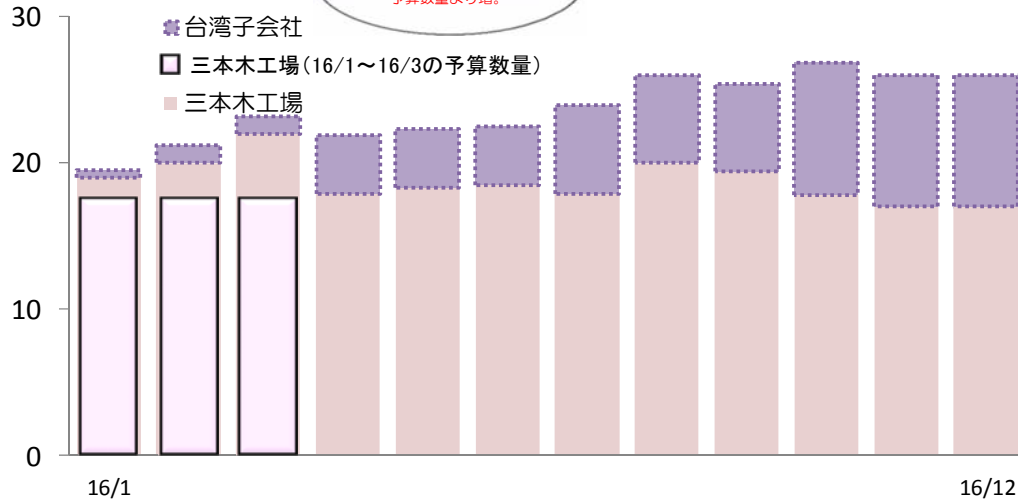
⑤中国半導体マーケットへの参入

台湾子会社新設・三本木工場増設による生産力拡大①

～台湾子会社と三本木工場300mmウェーハ出荷枚数推移～

●2016年●

万枚



2016/1～2016/3は実績。2016/4以降は予算数値となります。

三本木工場は3月に過去最高の生産・出荷（22万枚/月）を記録。

なお、2016/4より台湾子会社受注開始となっております。

台湾子会社の受注開始に伴い、上記の通り出荷枚数も増加傾向の見込み。

台湾子会社新設・三本木工場増設による生産力拡大②

台湾子会社受注開始、本格稼働へ

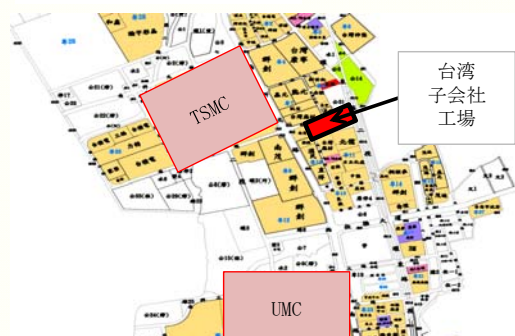
当社の100%出資子会社である、RSTEC Semiconductor Taiwan Co., LTD. (艾爾斯半導體股份有限公司)において、シリコンウェーハ再生加工工場の、顧客による工場認定が完了しました。

今後、台湾子会社工場の本格稼働に伴い需要増加が見込まれる現地顧客のニーズに合致したシリコンウェーハ再生加工工場の製造・販売拡大により一層注力するとともに当社グループの中期計画の実現に向け注力してまいります。

工場の外観



台南サイエンスパーク内地図



中・長期的な経営方針

①台湾子会社新設・三本木工場増設による生産力拡大

②再生市場での当社のシェア拡大

●今回のトピックス●

③伸長する需要の取込み

④潜在的な再生市場の開拓

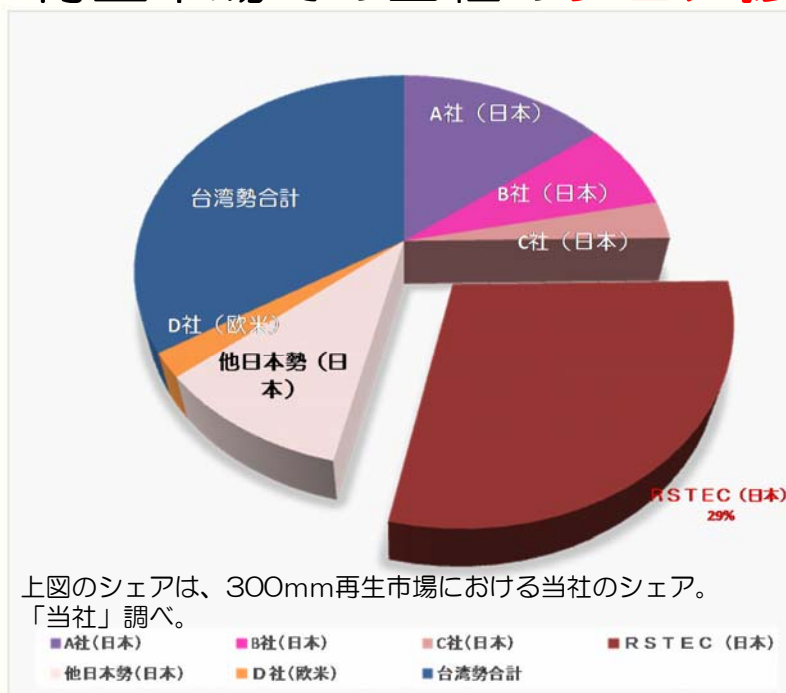
⑤中国半導体マーケットへの参入

11

13. May. 2016



「再生市場での当社のシェア拡大」①



台湾の新設・三本木の増設により、生産能力があがり、生産能力ベースではシェアは29%まで上昇。

既存設備の収率（歩留り）向上、三本木工場の空工場利用、台湾移設設備の有効活用と業務提携・M&A等の手法を用いて

中期的に40%のシェアを目標。

12

13. May. 2016



その他今期のトピックス

投資事業の開始予定について ~Revival of Segment **事業再生**ファンド~

名称	RS下町ファンド投資事業有限責任組合
設立時期	2016年夏以降（予定）
無限責任組合員	日本ベンチャーキャピタル株式会社

当社は、ラサ工業株式会社より事業を承継し、事業を再生させました。
その経験を生かし、日本の技術力に優れた企業で海外に販路がない、などの理由で成長阻害要因がある企業を再生させたいという意思の元、当ファンドに参画する予定です。
将来ファンドの投資先との協業等のシナジーを追求することで、当社グループ全体の企業価値向上を目指します。
なお、詳細が固まりましたら、別途開示いたします。